

学校再編説明会記録（意見交換分）

1 日 時 令和3年10月19日（火）19：00～20：00

2 場 所 緑小学校多目的室

3 参加者

(1) 教育委員会4名（中村教育長、岩井課長、近田課長補佐、西田課長補佐）

(2) 保 護 者7名

(3) 学 校 職 員3名

4 意見交換（発言者）

（課 長） 今の説明についてご質問はありませんか。

○ ○ 5年間で統合予定だが、今在籍している生徒が残りたいと思えば、学校は残ることができるのだろうか？

（課 長） 今回は答申の説明なので、それを基に推進計画を作っていく。答申によると5年以内だが、校区はそのままである。その年度になった際には、地域・保護者の合意を得て新たな校区に再編する流れになる。

（教育長） 半分ずつ分かれるのは、考えていない。様々な場合を考えて残るという選択肢はある。ある校区で最後の1人（家庭）になっても「統合に反対」という意見があれば、統合されないのかという質問もあったが、今からの教育は、子どもたち同士の学び合い・役割分担をしながらの学び等、対話的な学びが進められる。そのため、子どもにとって最適な教育環境を目指すという観点では、学校に子どもが「1人」という状況は難しく、その実現は厳しいかと考えている。

（課 長） 答申にある枠組みでは、再編になる場合、緑小学校は城辺小学校と統合だが、それについてのご意見はないでしょうか？

（教育長） 例えば、様々なことから城辺小でなく平城小も考えられます。

○ ○ 中学校なら部活動のことも考えると城辺中ですが……。保護者の意見を聞いてほしい。

（課 長） そこに決まったからと言って絶対とは言えない。校区外申請があり、一定条件を満たせば別の学校に行くことができる。保育所関連でもあるように、保育所からの友人関係を考慮して、その地区の小学校に進むというような選択の仕方もある。

（教育長） 保育所からの関係で進学すると、小さな学校の縮小がますます進んでいくのではないかとの意見もある。

原則としては、通いやすい学校へ行くべきであるが、中学校の場合、希望する部活動の有無が左右する。教育委員会との話合いで対応するが、通学手段等については課題も出てくる。

○ ○ 校区外申請の条件は厳しく、希望が通らず寂しい思いをした子どもさんの話を聞いたことがある。

(課 長) 今はそれほど厳しくなく、家庭状況等を十分に勘案して対応する。以前は、学校規模を守るという流れがあった。

通学に関しては、今までの再編した学校は、コミュニティーバス、タクシー会社（委託）で対応しているが、これ以上増えると、どうなるかわからない。新しい通学方法も模索中だが、今の段階では具体的なものはない。

緑小学校で一番通学距離が遠いご家庭は何 km でしょうか？国が示すのは徒歩 4 km ですが、愛南町では 3 km を目安にしている。ですので、だいたい 3 km で収まっているのではないのでしょうか……。なにかございましたら……。これをもとに計画を作っていくのでよろしいでしょうか。何年度に再編するというのを検討していく必要があるが、人数や学級数の問題がある。教員・学級の数を決める基準がある。もちろん養護教諭についてもある。その点も確認しながらの再編案の提案になる。今、緑の特別支援学級は 1 学級だが、その 1 学級の影響もかなり大きい。既に、愛南町で教頭、養護教諭が配置できない学校が出てきている。本校の〇〇養護教諭は、〇〇小学校との兼務発令となっている。それぞれの学校の転入生や入学生の有無が、教員の配置に大きく影響し、ひいては町全体の教育環境に大きく関わってくる。

答申の大枠については、ご理解していただいたでしょうか。もし、ここでは伝えづらかった内容等がありましたら、後日、学校を通してお伝えください。

(教育長) 今後の進め方は、ここでの意見を持ち帰り、進めてまいります。アンケートや文書等でご意見を伺ったり、PTA 会長さんと話をさせていただいたり、再び参集していただいたり、様々な形を取っていきたいと考えている。

(課 長) 普段の学校の教育全般に関してのご意見やご提案はございませんか。

(教育長) 愛南町自体は小規模校の複式学級支援員という他市町にはない大きな配慮をしているが、1 校に複式学級が 3 つとなるとカバーするのはなかなか難しくなる。その点も踏まえたうえで、検討を進めたい。